

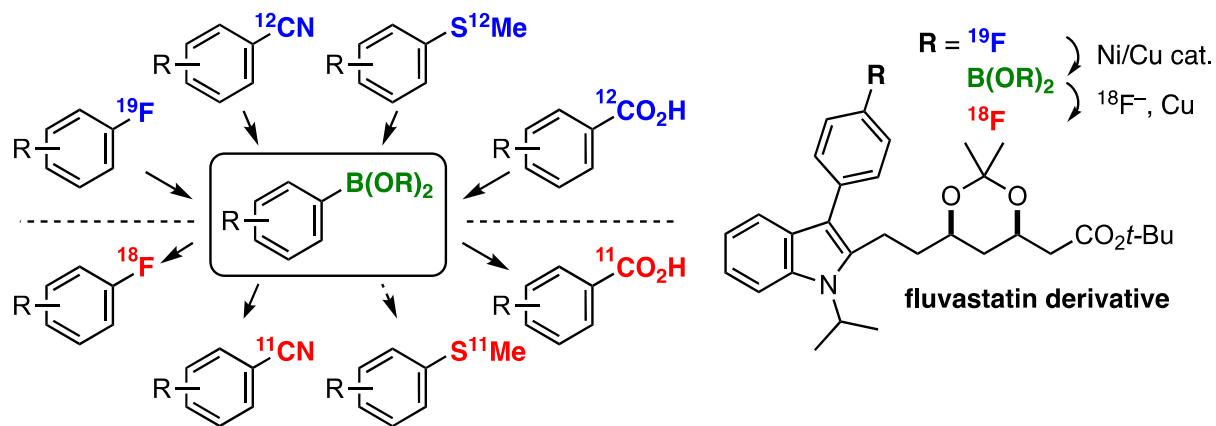
精密合成化学セミナー（第5回）

PETイメージングに役立つ新しい反応の開発

丹羽 節 博士

（理化学研究所生命機能科学研究センター 分子標的化学研究チーム・副チームリーダー）

理研 BDR では、ヒトにも適用可能な分子イメージング技術の一つである陽電子放射断層撮像（PET）に着目し、その高度化と生命科学研究への応用を進めています。講演者も様々な分野の研究者と協力し、PET による多彩な生命現象の可視化を目的とした PET プローブの開発に取り組んできました。PET プローブは、炭素 11 やフッ素 18 などの陽電子放射核種（PET 核種）を用いた、生物活性化合物の標識により合成されますが、これらの核種の寿命が短いため、短時間で化学結合を形成する標識技術が重要です。一方、理研における共同研究を通じ、PET プローブ開発の推進には、標識技術の高度化のみならず、安定同位体を用いた一般的な反応開発も有効であることがわかってきました。本講演では、PET プローブ開発の効率化を念頭において、我々のチームが進めた反応開発について、最新の成果を交えて発表します。



2020年3月2日(月) 15時より

カラーニングハウスII CII 講義室 (4F)

問合先 精密合成化学研究室 土肥寿文 (内線 6181)

【共催】R-GIRO

「有機生命資源の有効利用による電子・光機能性材料の創製」